

学会参加報告書

提出日 2015 年 7 月 10 日

学籍番号	14N0008	学系	トレーニング科学系
氏名	平野 智也		
学会等名 (正式名称)	20th annual congress of the European College of Sport Science		
開催日程	2015 年 6 月 24 日 ~ 2015 年 6 月 27 日		
開催場所 (国・都市名)	スウェーデン・マルメ		
発表演題名	A KINEMATIC COMPARISON OF NON-MOTORIZED TREADMILL AND OVERGROUND WALKING		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> ヨーロッパスポーツ科学会議は、20回の節目を迎え、若手からベテランまでの研究者がスウェーデンのマルメに集まった。オープニングセレモニーでは、今回の学会への参加が最も多い国が日本と発表され、驚きの結果であった。発表は、Apprication というキーワードが強く意識され、質疑においても、その結果がどのような解釈であり、どのように応用できるかという議論が多々見られた。特に、ヨーロッパの研究者は、アスリートの最大酸素摂取量や筋力といった基本的なデータを地道に取得しているという点に感銘を受けた。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> DAILY CHANGES OF INDIVIDUAL GAIT PATTERNS Horst, F., Kramer, F., Schäfer, B., Eekhoff, A., Hegen, P. & Schöllhorn, W.I. 歩行パターンはとても再現性があることが示されている。一方、変動性がランダムノイズを反映することを支持されてきた。本研究の目的は、再現性のある範囲の中で歩行パターンを探ることであった。個々の歩行の特徴は、2週にわたって持続された。変動性は、単にランダムノイズのみを反映するわけでないことが示された。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> ・この自走式トレッドミルを推奨する点は? ・歩行路での歩行動作との最も異なるところは? ・先行研究で行われているモータードライブトレッドミルと本研究の自走式トレッドミルとの比較は? ・筋活動をみるとよい</p>		

- ※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。
提出期限は学会終了後2週間以内とする。
本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。